
素直ってなんだろう

武藤論

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

素直ってなんだろう

【コード】

N6390N

【作者名】

武藤論

【あらすじ】

「うるさいチューリップ！」

素直に慣れない私、蓮池杏の恋のお話。

ちなみにイナズマイレブンの二次創作です。

舞台は韓国戦後、晴矢達がお日さま園に帰ってきた辺りから

あいつと私（前書き）

イナズマイレブンのNLですが、只今はバンレア連載です。そのうち番外編としてCPを変えていきます。NLならリクエスト大丈夫です。時間はかかりますが出来る限りがんばります。

あいつと私

私の名前は蓮池杏、エイリアではレアンって呼ばれてた。

突然だけど、私には好きな人がいる。どうしてあんな奴を好きになったのかはわからない。けど、好きになってしまったからには仕方がない。

「おい。何ぼーっとしてんだよ」

「うるさいバカチューリップ」

「んだと！だまれくるくる野郎！」

私が考え事をしていると、一人の男がうるさく突っかかってくる。この男が南雲晴矢、エイリアではバーンって呼ばれてた。

…認めたくないけど私の好きな人だ。ちなみにチューリップはあいつの頭がチューリップみたいだからだ。

「だから何でぼーっとしてんだよ」

「なんだっていいでしょ！？私にだって悩みくらいあるの」「このチューリップは人の気持ちも知らないで…」。

「あー！胸か！」

「胸じゃない！」

「んだよ。ちつちえの気にしてんじゃねえのかよ」

「うづうづ…うるさーい！でてけバカチューリップ！変態！効果音！」

私はあいつを部屋から追い出す。ピシヤリと戸を閉めて部屋の真ん中に座り込んだ。

…なんでこうなるのかなあ。ほんと是一緒にいたい。けどあいつは私のことなんてなんとも思わないんだろうなあ。

「あ、夕食だった」

私は夕食の時間になったので食卓へと向かった。

「浮かない顔してるわね」

「え、そうかな…」

夕食を食べていると、隣の瞳子姉さんが私に話しかけてきた。

「何かあったの？」

「なんでもないよ。じゃあごちそうさま！」

私は早々と食事を切り上げて、夜の散歩に向かった。瞳子姉さんでもあいつの相談なんてできないわよ。

「あゝあ」

私は散歩中に何度この言葉を言っただろう。

あいつは言わなきゃ気づかないんだろうな。

私は憂鬱に歩いていると、後ろから声が聞こえた。

「おい。なにため息ついてんだよ」

この声、すぐわかる。あいつだ。

「何よチューリップ」

「だからチューリップじゃねえよ。それよりマジでお前どうした？」

私に気遣ってくれている。けど…私は素直じゃないんだよ。

「チューリップには関係ない！バーカ」

「な！てめえ！せつかく心配してやってんのに」

「う…うるさい…」

あれ？何で私泣いてるの？

好きな人が心配してくれて…何で？

「おまつ！なに泣いてんだよ！おれなんか言っただか？」

「うる…さい…チューリップ」

私はいつの方をちらつと見た。あいつはぎよっとしている。まあ私が泣いたからなんだろうけど。

「チューリップには…わかるわけじゃない」

「いい加減チューリップやめろよ。俺は晴矢。晴矢って呼べよ」

私はドキッとした。ただ本名で呼べと言っただけなのに。

「晴矢…」

私は小さく呟く。なんだか恥ずかしかった。だけど私の涙はいつの間にか消えていた。

「…つたく。いきなり泣くんじゃねえよ」

「うるさい…晴矢／＼」

私の顔は真っ赤だ。夜だからわかんないけど、名前だけでこんなに
なると思わなかった。意外と優しいんだ…。

「ねえ」

「なんだよ」

「私のこと、杏ってよんでよ」

…我ながら恥ずかしい。

「…なんだお前。別にレアンでいいだろ」

私はちよつとムツとする。

「わーったよ！杏！これで満足だろ」

カーツ！となっていくのが自分でわかる。ただ、あいつに名前で呼
ばれただけなのに。

「てか帰ろうぜ。寒いし」

…私は元プロミネンスが寒いと言っているのかと思ったけど口には
しなかった。

「はやく帰るぞ杏」

私は照れながらあいつの横を歩く。

その時、私の前をなにかが横切った。突然のことに私はすごい驚いた。

「きゃっ!」

思わず、あいつに抱きついてしまった。

「…たかがコウモリだろ。大袈裟なんだよ」

「……………」

私はなにも言えない。急に恥ずかしくなった。

やばい!私の恥ずかしさは限界に達し、私は思わず走り出す。

「までよ!」

バシッと私の手はあいつに捕まれる。

「何よ…!」

「杏、お前やっぱ胸ねえな。ぺちゃんこだったぜ」

…ぶち。

私の中でなにかが切れた。

「……………」

「あ？どうしたんだよ」

「うるさいーいー！この大バカチューリップー！どスケベー！どっ
か行っちゃえバーカ！」

「な！てめえ好き放題言いやがって！ペちゃんこ！貧乳！絶壁！」

「チューリップー！」

「くるくる野郎ー！」

「うるさいバーカー！ー！ー！」

これがいつものあいつと私

はあ…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6390n/>

素直ってなんだろう

2010年10月8日12時05分発行